

第2回日カンボジア二国間フードバリューチェーン対話

1 概要

開催日、場所：平成29年1月24日、プノンペン

概要：カンボジアにおけるフードバリューチェーン構築のため、両国で積極的に取り組む官民の活動を紹介。
日本側からカンボジアにおいて投資や事業を行う上での課題となっている輸出入手続き等について改善を要請し、カンボジア側からは改善のための支援が要請された。また、今後、第1回対話の成果としてカンボジア農林水産省に設置された相談窓口や両国の官民の取組を記載した表を活用していくことを確認。

現地視察：カンボジアで活動中の以下の企業を訪問。両企業のビジネス展開の状況及び懸案事項（食品安全や残留農薬等の課題）を聴取。

- ・(株)菜々屋×(株)スペック：カンボジアの農業に適用可能なGAPによる野菜生産・流通の実証のため活動中。
((株)菜々屋は、徳島県の農業生産法人が共同で立ち上げた企業であり、(株)スペックは食品関連の検査業務等を行う企業)
- ・(株)ジャパン・ファームプロダクツ：ドライポートを活用した物流倉庫一体型の農産加工場(カンボジア初)を展開。郵船ロジスティクスと連携して冷蔵・冷凍施設において契約栽培の野菜を加工し、高付加価値商品としてカンボジア国内へ出荷。また、日本とのFVC連携事業を実施。(日本産柿をカンボジアで加工し、日本に再輸出。来年度から周辺諸国への販売を計画。)

*ドライポートとは、貯蔵施設・商品の混載・通関手続きを一貫して行うことができる内陸の複合ターミナルのこと。

2 出席者

日本側：田野井農林水産省大臣官房審議官、在カンボジア日本国大使館、JICA、JETRO、13の農業・食品関係及び物流関係企業の代表

【出席企業】(アルファベット順)

イオン、HAYASHIDA Japan Agriculture、ジャパン・ファームプロダクツ、JC Holdings、クラタペッパー、三菱商事、日本通運、スペック、タイワ精機、トランシロジスティクス、東洋製罐、豊田通商、United Insurance Company of Vietnam

カンボジア側：ヴェーン・サコン農林水産省大臣、サン・バンティ同省次官補、カンボジア開発評議会、商業省、経済財政省、工業・手工芸省、水資源気象省、カンボジア商工会議所、カンボジア米穀連盟、経済委員会、23の農業・食品関係企業

